

# 南風

南照寺 寺報 第一号 平成二十五年 春

新緑の候、いかがおすごしでしょうか。

この度、住職を拝命しました、友澤秀三です。先日  
の襲職法要では、さまざまな形で過分なるお氣遣いを  
いただき、誠にありがとうございます。就任への一  
方ならぬ期待を感じ、大いに恐縮いたしております。

とりあえずは、どうすれば南照寺御門徒方に親し  
みを持つていただけるかを、思索していくつもりです。  
これまでの経緯をざっと振り返ると、昨年春に御紹介  
いただいて、すぐその夏にお盆の法要を兼ねて御挨拶、  
秋の住職修習を終えて本山からの任命を受けた後、冬  
には各寺院関係に披露、そしてこの春の襲職法要と続  
きました。誠に慌しいとしか言いようがありません。

最近になってやつと、具体的に住職の仕事というも  
のを考えられるようになってきました。勿論さまざま  
にある仕事のうちの一面でしかありませんが、それは  
「法座」、「寺報」、それと「現在帳」、の三つをきちん  
とやることではなかるうか、と。

## ・法座

難しいことではなく、単にお寺の行事のことです。  
浄土真宗のお寺では、報恩講、永代経というのが特に  
よくお勤めされています。これにお盆、春秋のお彼岸、  
元旦の修正会、なども一般寺院と同様に勤まることが  
多く見られます。また、この頃は一種の懐かしさを伴  
い、釈迦の誕生会である「はなまつり」を、四月八日  
前後になさるところも散見されるようです。

## ・寺報

それぞれのお寺で出す、一種の会報です。法座など  
を含むお寺の行事予定をお知らせしたり、お経の大事  
な一節をわかりやすく解説したり、時事問題を仏教の  
視点でとらえなおしてみたり、と、結構自由に書かれ  
ているようです。そのお寺の御門徒方にお渡しするの  
みならず、他寺院や、広く一般に配布することも珍し  
くありません。

## ・現在帳

お寺は御門徒の「過去帳」を持っていますますが、むし  
ろ現在のあり方をちゃんと知っておくべきだ、との思  
いから造られた言葉です。どういってお顔の御主人で、

どういってお声の奥さんと、家族構成はこうで、子供さ  
んはどちらで所帯を持っておられて、などということ  
を、あらためて帳面に記すということではなくて、すぐ  
に思い浮かべられるということの大事さを意味して  
いるのだらうと思います。

実はこの「現在帳」こそが目下の大事ととらえてい  
ます。お寺は、仏教を伝える施設です。仏教は、人  
生きてはたらく教えです。百人いれば百通りの受け止  
め方がある「教え」は、やはり百様のあり方で、御一  
緒に聞いていくしかありません。それにはそれぞれ御  
門徒の人となり、お寺というものとどうい関わり  
方、接し方であるかということ、臚げながらもわ  
かっていないことには、どうにもなりません。

そこで、前にも御門徒の方々にお集まりいただいた  
時でしたか、それぞれ皆様方のお宅に一度は「訪問」  
させていただきたいとお話したかと思うのですが、い  
ざ電話で連絡を取る段になって、なかなかはかどれな  
いことに立ち至りました。仮にも住職が自宅に来ると  
あつては、様々に気苦労がのしかかり、大きなストレ  
スを与えるであろうことに、非常に鈍感でありました。  
反省しきりです。その上、昨今では登録外の電話は不  
要な勧誘等、百害とみなして受けないということが非  
常に多くなっておりまして、電話自体からならないこと  
も度々です。それならば、むしろお墓参りのついでの  
感覚で、御来院いただいたほうが負担は少ないのでは  
なかるうか、と考えたのはこういう道筋でありました。

門徒総代の方々との話し合いのもと、今後は基本的  
に、第三土曜日の午後二時から、南照寺本堂に於いて  
「お勤め」（正信偈）を御一緒にする機会を設けるこ  
ととなりました。早速この五月一八日に開きます。そ  
の後は時間を特に決めずに、雑多な歓談の場としよう  
か思っております。未定の「法座」についても、お知  
恵をいただけたら幸いです。とにかくどなた様でもお  
気軽にお寄りいただけることが、肝心なところですよ  
うで、何卒よろしくお願いいたします。

様々な温度差があることは否めません。しかしなが  
ら、皆それぞれ自分で今後の南照寺を作っていくこと  
が本当なように思います。まさしくこのことこそ「後  
生の一大事」と言えるのではないのでしょうか。